

令和4年度学校評価報告書

令和5年3月24日

北海道教育委員会教育長 様

北海道滝川高等学校長 古 川 栄 一 印

次のとおり平成4年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

(1) 全道・全国に通じる進学校としての確立を進める (2) 地域の信頼に応え、社会の有為な形成者としての自覚を持った生徒の育成を進める (3) 生徒理解の基づく教育相談（ガイダンス機能・カウンセリング機能）を充実させる (4) 管内唯一の理数科設置校として、SSH事業の取組を通して学校力の向上を図る (5) 学校の教育活動に関する効果的な情報の発信に努め、選ばれる学校づくりを進める
--

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
総 務	・ 安心メール導入による緊急連絡に一定の成果が見られた。 ・ コロナ禍の中、十分とは言えないが学校祭や体育祭での補助ができた。 ・ 安心メールと連動してウェブページに連絡事項を掲載するなど活用できた。 ・ 奨学金保護者説明会を適切な時期に行えたためその後の事務処理がスムーズであった。	・ 生徒や保護者への連絡方法の改善など一定の成果が見られる。今後もスムーズで有効な運営に努めて欲しい。
改善方策	・ 各種アンケートについてもGoogleフォーム等で集約できるように検討を進める。 ・ 安心メールを活用した開催案内などの情報提供を進める。	
学習指導	・ BYODの活用について、電子辞書アプリ導入など1年次を中心に様々な取組がなされた。 ・ 教務支援システムが更新された中でも大きな問題がなく対応できた。 ・ 観点別評価についての研修会を実施し、円滑に評価を行えた。 ・ 無線LANの使用できる範囲が拡大するなど環境整備が進んだ。 ・ ICT活用により会議等でのペーパーレス化が進んだ。	・ タブレットの活用等について一定の成果が上がっていると評価する。
改善方策	・ 授業の質の向上、課題研究の充実、評価のあり方の研究等について今後も研修を重ねていく。BYODや観点別評価など、昨今の学校課題に準じたテーマ設定を行う等、教員の参加意欲の向上を図る。	
生徒指導	・ 生徒会活動について、規模を縮小したり工夫しながらすすめることができた。各種ボランティア活動にも生徒の参加が見られた。	・ 各種ボランティア活動に生徒の参加が見られたことは高く評価する。 ・ 生徒会活動で地域清掃ボランティア等に取り組むことも検討して欲しい。
改善方策	・ 多様化する生徒指導への対応のため、生徒指導方針を見直し組織的に対応できるよう検討を進める。	
進路指導	・ 共通テストで多くの科目で全国平均点を上回るなど、講習等の成果が現れた。	・ 共通テストへの対策については、成果を認める。。引き続き、熱心に指導して

	・推薦での合格がここ数年で最多であった(国公立10北大2含、私大24)。	いただきたい。
改善方策	・大学入試の科目選択の仕方が複雑化していることへの生徒への説明をどのように進めるか検討を進める。	
S S H・ 理数科	・普通科全学年・年次で指導計画を学年・年次と協議した上で提示することができた。探究委員会を組織し、全校体制で28展開の総合探究の指導ができた。 ・課題研究発表会をオープンスクールに組み入れ、地域の中学生への周知ができた。 ・東北研修や海外研修を集中講義的な科目として設定する準備を進めることができた。(R5より開設見込み) ・科学の甲子園に3チーム18名、世界津波の日高校生サミットに2名、北海道高校生防災カフェ防災サミットに8名の派遣を行った。	・S S Hの地域への周知と学校全体での取組の充実に期待する。 ・対外的な発表の場を設けたことは評価できる。次年度に向けての活動に期待する。
改善方策	・各事業をさらにウェブページ等で発信していく。 ・北空知地区の探究活動の拠点として、他の機関等とも更に連携を深めていく。	
いじめ防止	・いじめ防止プログラムが3年分完成し、いじめ等の未然防止への取組がさらに深まった。	・いじめの未然防止や早期対応が重要である。
改善方策	・いじめの積極的認知に向けて、生徒が相談しやすい環境づくりに努める。	
公表方法	・学校だよりやW e b ページに掲載するとともに、学校評議員会、P T A役員会にて口頭で説明する。	

3 添付資料

- (1) 令和4年度自己評価書
(2) 保護者アンケート

1 部
1 部